

薬草による地域おこし・健康おこしで「筑後川の駅しばかり」を中心とした古里の暮らしを活性化する

健康を考える古里の会（久留米市田主丸町八幡）

【地域協議会構成団体】 直売所（筑後川の駅しばかり）、大窪地区、九州薬用作物推進協議会、久留米市（事務局）、商工会

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成29年 6月

- ・協議会構成団体が参加する総会を開催。将来ビジョンの素案を提示し、意見調整を実施。
- ・地元住民が多く集まる直売所店舗内、公民館内に掲示。必要に応じて説明を実施。イベントなどでのチラシ配布



【将来ビジョン素案提示会議の実施】



【将来ビジョンポスターの提示】

2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・地域農業の後継者確保：H30年は月1回のミニワークショップをKUHONカフェで実施。（ナチュラルマルシェ）・グリーンツーリズムの実施・「薬草の里」の開設：H29年は47aに薬草を作付。H30年は、R元年7月の開催に向け薬草収穫観光農園へのモニターツアーの実施準備。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・6次化商品の開発：H29年は4品・H30年は3品を商品化。
- ・企業・団体を対象とした収穫体験を、R元年度から実施に向けほ場を整備。

III 地域の人口を増やす

- ・地域イベントを年3回実施。



【グリーンツーリズムでの農業体験】



【交流イベント・納涼祭】



【薬草観光農園へのほ場の整備】

3. 今後の展望

- ・H30年同様、様々なイベントに参加してPRを行い、体験農園やツーリズム参加者募集に努める。そのための魅力的なプログラムを準備し、特に都市圏（福岡市等）の企業や団体からの来場者を増やしたい。
- ・5年先の将来を見据えて、中心となる後継者を育成する。（特に薬草の栽培・圃場管理を担うもの）
- ・地域全体で薬草栽培面積の増大を図る。
- ・H29～30年度に商品化した加工品を増産し、本格的に販売する。
- ・H30年度以降は都市圏の企業向け通販サイトを立ち上げ、販売に力を入れる。
- ・地域情報を発信できるコンシェルジュを育成し、地域への来訪者を増やす取り組みを行うため、久留米大学と連携し、企画準備中。



【薬用植物を使ったモリンガマカロン】



【薬用植物を使ったモリンガパン】